教育の課程と方法（教職専門科目）

「教育の課程と方法」の評価と改善

教育臨床・富田英司

授業情報

授業名：教育の課程と方法
開講時期：令和２年前学期
時間割番号：120133
対象学生：初等・特支
担当：富田英司
受講者数：133 名
DP 対応調査回答者数：131 名

授業概要

教育課程は教育の目的に応じて諸活動を配置する計画のことであり，教育方法は学習内容を教える方法に関するものである。この授業では理論と関連づけながら具体的な教え方と実際の方法を学ぶ。今回の報告では，昨年度に引き続き，この授業の評価と改善についてまとめた。

特にこの授業で育成を狙ったディプロマポリシーの項目としては，これまでと同じく「思考・判断・表現」（教育現場で生じているさまざまな現代的諸課題について，専門的な知見をもとに，その対応方策を理論に基づいて総合的に考え，その過程や結果を適切に表現することができる）を想定した。

前年度は，「DP３思考・判断・表現」を最も重視した授業として授業者は設計したものの，その評定値が十分に高いとは言えなかった。そこで令和２年度においては，その点を実現すべく，受講生が参加することのできる問題解決の要素をより多く取り入れていくために，今年度は，Microsoft Teams を用いて遠隔ながらも双方向性と小グループでの活動を重視した授業づくりを進めた。具体的には，（１）チャット機能を用いた質問の常時受け付け，（２）小グループ活動で利用する媒体の自由化（LINE 電話，Zoom，Teams 等），（３）３つのミニ・プロジェクト（家庭学習支援の現状リサーチ，問題解決型アクティブ・ラーニングの構成要素分析，家庭学習支援プログラムの提案）を中心とした授業の展開，を授業計画に組み入れた。

ＤＰ対応調査の結果

① 評定値

ＤＰ１−４の項目に沿った授業かどうかに関する受講生の評定は以下の表に示すとおりであった。なお，評定値の凡例は 1：とてもそう思う，2：ある程度そう思う，3：あまりそう思わない，4：授業の目標・内容がこの DP とは無関係である，であった。この表には，「教育の課程と方法」の３年間に渡る DP 調査の結果の変遷が分かるようにしてある。

DP１知識・理解については，「1：とてもそう思う」と判断する学生が，26％から 56％へおよそ２倍伸びている。

DP２技能については，「1：とてもそう思う」と判断する学生の割合において，３年間で大きな変化は見られていない。

DP３思考・判断・表現については，「1：とてもそう思う」と判断する学生の割合が３年間で 25％から 48％へとおよそ２倍伸びている。

最後に，DP４態度については，「1：とてもそう思う」と判断する学生の割合が３年間で32%から50%へとおよそ1.5倍伸びた。

② 時間外学習等の状況

以下には，時間外学習時間等に関する３年間の変遷が示されている。今年度の特筆すべき変化は，自主的に読んだ文献の数である。これまでよりも２倍以上平均値が高くなっている。

- 時間外学習（課題）：週平均1.3時間（前年度1.5時間，一昨年度1.2時間）
- 時間外学習（課題外）：週平均0.5時間（前年度0.8時間，一昨年度0.3時間）
- 自主的に読んだ文献数：平均１点（前年度0.3点，一昨年度0.4点）
- 授業をきっかけたとした活動：平均0.2個（前年度0.1個，一昨年度0.1個）

表　「教育の課程と方法」の３年間に渡るDP調査の結果

評定	DP1：知識理解			DP2：技能			DP3：思考判断表現			DP4：興味関心意欲		
	H31年	R元年	R2年	H31年	R元年	R2年	H31年	R元年	R2年	H31年	R元年	R2年
1	34 (26%)	46 (42%)	73 (56%)	31 (23%)	32 (29%)	36 (27%)	33 (25%)	35 (32%)	63 (48%)	42 (32%)	36 (33%)	66 (50%)
2	87 (66%)	60 (55%)	56 (43%)	84 (64%)	64 (58%)	85 (65%)	89 (67%)	72 (65%)	65 (50%)	80 (60%)	65 (59%)	62 (47%)
3	11 (8%)	4 (4%)	1 (1%)	16 (12%)	13 (12%)	9 (7%)	9 (7%)	3 (3%)	2 (2%)	9 (7%)	8 (7%)	3 (2%)
4	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (1%)	1 (1%)	1 (1%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (1%)	1 (1%)	0 (0%)

③ 自由記述

「この授業で扱ってほしいと思った内容がもしあれば教えてください。来年度の授業づくりの参考にしたいと思います。」という質問をしたところ，昨年度は「もっと実践事例をみたい」「カリキュラムについてもっと知りたい」「グループではなく個人で学習指導案を作成したい」「もっとグループの活動を増やし達」といった回答を得ていた。今年度の回答内容は，「ない」「特にない」といった回答を除いて，以下のとおりであった。

- インクルーシブ教育について
- キャリア教育について
- これからの教育的ニーズを踏まえた授業で、今後の教員生活に役に立つ内容でした。ただ、知識として獲得できても、実践をしたこともみたこともないので、もしよろしければ、実践させている映像を見てみたいと思った。
- つまずいている子に対しての指導について考えがちなので、今回のような、つまずいていない生徒も置き去りにしないような、個人にあった学び方はとても参考になったので、引き続き扱ってほしいと思いました。
- とてもわかりやすい授業でした。
- 各教科の関連についてもっと詳しく知りたいです。評価などがどのようになるのかなど。
- 教科横断型の指導案の書き方
- 今回のような形式での学習内容でも楽しく、わかりやすい授業でした。
- 児童同士による相互評価について
- 自分の知らないことばかりでいっぱいいっぱいになったりもしたので、新たに取り入

れるのもいいと思いますが、多すぎると整理が難しいかもしれないなと思いました。的外れな回答ですみません。

- 大津中学校の事件

<u>授業改善について</u>

今年度は，ＤＰ対応調査の昨年度の結果を踏まえて，受講生が参加することのできる問題解決の要素を多く取り入れていた。その結果，元々狙っていたＤＰ３の評定項目について，「１」とする学生の数が 32%から 48%へと大幅に上がった。今年度，新型コロナウイルス感染拡大防止を図るために急遽遠隔授業を取り組むことになった中で，このように授業評価が高まったことは大変有意義なことだと言える。

来年度への課題としては，これまでにも複数年度に渡って学生から要望として上がってきた授業実践例を示すための動画教材を増やしていきたいと考えている。また，自由記述で一件指摘があったが，新しい知識を導入しすぎないという点でも留意していきたい。